

## 阪神電鉄 その③

### 孤高の電鉄会社

阪神電鉄 その①で照会したように 会社発足直後から現在まで「阪神電鉄」愛称は「阪神電車」で親しまれてきましたが、他の多くの電鉄会社は路線の拡充、あるいは競合路線の整理統合を繰り返して現在のようにネットワークを形成してきたわけですが、その過程で吸収合併あるいは分割が行われ、社名変更もその都度行われてきていました。

そのもっとも大きな出来事は、昭和18、19年の政府による「戦時体制強化のための経営の統合」であった。

このときにおこなわれたもので京阪神間の大きな合併は

旧阪急電鉄と旧京阪電鉄の合併による

「京阪神急行電鉄」

旧南海鉄道と旧参宮鉄道との合併による

「近畿日本鉄道」の誕生である。

このとき、小さな企業である「阪神電鉄」は当然にどこかに合併させられていただろうに、なぜか、この荒波を受けることなく一人、大都会の中で小さな電鉄会社を守り抜いてきた、奇跡の会社なのであります。

(合併の波から免れたのも、当時 尼崎周辺は、日本有数の工業地帯であり、工場勤務者が多く汚い路線なので合併を引き受ける会社もなかった?—というウワサ話もあります)

今は、面目一新、きれいな車両が多くなり、山陽電車とまた近鉄と相互乗入れするような会社に大成長しました。

平時の昨今になって、阪急と資本統合したことは、皮肉な現象です。

